サンタがやって来た

避難生活送る福島の子らの夢叶える

ありがとうサンタさん

子どもトントからサンタへプレゼントが＝渋谷局

渋谷局・東雲住宅・鎌倉小

本場フィンランドのサンタクロースが昨年の十二月十五日、東京の渋谷郵便局と東雲住宅（江東区）、鎌倉小学校（葛飾区）を訪れ、子どもたちと楽しく交流した。

東京都は日本・フィンランドサンタクロース協会（静岡市／宮田仁美代表理事）が行った「サンタさんへ手紙を書こう！手紙を書いてサンタを街に呼ぼう!!」企画（四回目）で全国一位（二千六百七十八通）となった。

一昨年の福島第一原発事故の影響により東京で避難生活を送る南相馬市の児童（直希君）の母親・廣田一枝さんから同協会に寄せられた「本物のサンタさんに来ていただき、子どもたちにステキな夢をお願いします」とのはがきがきっかけとなり、東京地方郵便局長会（蓮見昌男会長／金町）などの強力な後押しで夢が実現した。

午前中に渋谷局（志賀宏志局長）で子どもたちとの交流イベントを終えたサンタクロースは午後、福島県からの避難者が多く暮らす東雲住宅（国家公務員宿舎）へ。

あいにくの雨と寒さだったが、サンタを待つ家族で熱気があふれる集会室にサンタが姿を現し「メリークリスマス」と声をかけると、子どもたちは「サンタさーん」と歓声を上げた。感動の対面を果たし、代表してサンタからプレゼントを受け取った直希君（小学三年生）は思わずニッコリ。

金員でサンタ体操を行ったり、サンタの年齢やどうやって来たのか、好きな食べ物など質問、サンタと一緒の写真を撮ってもらい楽しいひと時を過ごした。

続いて、サンタは葛飾区の鎌倉小学校（吉沼和人校長）を訪問。

待ち受ける大勢の児童にフィンランド語で「モイ（こんにちは）」と呼びかけると、一斉に「モーイ」と元気よく答える。「モイモイ（さようなら）」などの言葉を教えてもらった子どもたちは、目を輝かせながらクラスごとサンタと記念写真に収まり笑みを浮かべた。

西本幹幸乃さんと菅原香運さん（四年生）は「フィンランド語が少し分かりうれしかった。ヒゲモジャで面白かった」、保護者の辻りささんは「本物のサンタは、リアルで迫力があった」、吉沼校長は「サンタはとても温かく子どもたちもすごく喜んでいた。一生の思い出になる。実現できて良かった」と話していた。

渋谷局には日本郵便の武富靖直東京支社副支社長、東雲住宅には山崎孝明江東区長、鎌倉小には青木克徳葛飾区長らが出席。東京の中央南地区会（井上正和会長／目黒南三）、東地区会（北裕介会長／江戸川平井五）、東北地区会（蓮見会長）の地元局長が全面的に協力。三会場では、東京地方会の徳永民生専務理事が温かく見守っていた。

みんな一緒にサンタ体操を＝東雲住宅

サンタと楽しく話す児童＝鎌倉小学校

東京国際局

年末繁忙期の社員を激励

サンタクロースを囲んで

フィンランド政府公認の本場のサンタクロースが十二月十三日、クリスマスメールやEMSをはじめ、多くの国際郵便物の区分で忙しい東京国際局（西川信局長）を訪問した。

同局に到着したサンタクロースは早速、西川局長を表敬訪問。第一、第二EMS・小包郵便課、国際通常郵便課、業務企画室、郵便企画課の順で激励した。

途中、「たくさんのクリスマスメールの区分ご苦労さまです」とか、「寒い時期ですので、風邪を引かないように気をつけてください」と社員に声をかけていた。

サンタクロースの突然の訪問に多くの社員は大喜びで、サンタクロースとの会話を楽しんだり、記念写真に収まるなど、年末繁忙期の疲れを癒すことができたようで、繁忙期を最後まで乗り切るエネルギーをもらった感じである。

クリスマスメールなどの取り扱いも多くなり、年末繁忙のピークを迎えたこの時期のサンタクロースの訪問は、社員にとってまさに少し早いクリスマスプレゼントになったと言える。

社員一同は、「サンタクロースの手紙」や「クリスマスメール」をはじめとする手紙を通じて、お客さまの夢を育むとともに、手紙文化の振興を図ることの大切さを改めて認識した。

激励を終えサンタクロースは、扇子と手ぬぐいをプレゼントされ、「世界一幸せなサンタです」と喜びを語っていた。

通信文化新報

発行所
株式会社 通信文化新報
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町2-5-1
大晃ビル2F
電話 (03) 3219-6213
FAX (03) 3219-6000
Eメール
shinpou@tsushin-bunka.co.jp
URL
http://www.tsushin-bunka.co.jp
振替口座 00150-3-484473